令和７年度富山大学ウインドサーフィン部の安全対策と練習計画

平成 21 年 11 月 11 日作成
令和 4 年 12 月 10 日改正
令和 6 年 5 月 7 日改正
令和 7 年 1 月 4 日改正

目次

2024 年度富山大学ウインドサーフィン部の安全対策と練習計画 0

0. 本マニュアルの意義 2
1. 練習日（通常練習・非正規練習）前の準備 2
2. 練習日当日、出艇前の準備 2
3. 出艇時及び出艇後の確認事項 2
4. 出艇に関する制限 2
5. Es Viento の役割について 3
6. 海上での情報収集 4
7. 流された場合の対処 4
8. 緊急時の連絡 5
9. 地震への対応 6

0. 本マニュアルの意義

「ウインドサーフィン部の安全対策と練習計画」は富山大学ウインドサーフィン部が、ウインドサーフィン活動を無事故で安全に行うため、歴代の部員が独自で定めた安全対策マニュアルである。

本ウインドサーフィン部は、令和 2 年 3 月 2 日、当時の部員 4 名がウインドサーフィン中に強風に煽られて、遭難・一時海上保安部が出動するという事故を経験した。また、再度、令和 6 年 3 月 14 日にも部員 4 名がウインドサーフィン中に強風に煽られて外部の団体に救助を要請するという事故を起こしたこと、令和 6 年 1 月 1 日に震度 5 の地震、1m の津波を経験したことを踏まえ、本ウインドサーフィン部が今後安全に活動できるよう、令和 6 年 5 月 5 日に大幅な改訂を行ったものである（赤文字の部分が新たに追加、変更した内容である）。

部員は全員毎月第一土曜日に本マニュアルの内容を確認し、本マニュアルを遵守する旨を署名により意思表明する。本マニュアルは、非正規練習においても、特に記述がない限り全て履行されるものとする。

1. 練習日（通常練習・非正規練習）前の準備

- 事前に活動内容を杉谷地区事務部学務課に所定の様式(ウインドサーフィン届)で届け出る。

2. 練習日当日、出艇前の準備

- 冬季はウエットスーツを着用する。
- レスキューシートがついたライフジャケットを必ず正しく着用する。
- 現在位置を知らせるためのホイッスル、反射板を身につける。
- 携帯電話を全員が携帯する。
- 緊急時に備え部員及び関係機関の連絡先リストを常備する。
- 事前に風速予報、気圧配置図、注意報、警報の有無を全員把握してから出艇する。情報の収集にはインターネット、富山地方気象台技術課天気予報 (076-432-2311)、伏木特別地域気象観測所(076-644-0161)を利用する。
- 部長または船長は、練習開始前に練習参加者全員の名簿、Es Viento 乗員の名簿、練習開始時刻及び終了予定時刻を海竜マリーナに所定の様式で申告する。
- 緊急時に備え、浜辺に待機要員として１名以上待機しておき、連絡を取れるようにしておく。

3. 出艇時及び出艇後の確認事項

- 海竜マリーナから出艇について見合わせるように指示された場合は、出艇を中止する。
- 部活動の練習日誌を作成し、毎回練習後及び大会終了後に、当日の風速・風向予報、実際の風速・風向、活動時間、練習内容、反省点などを今後の活動のために書き込む。書き込んだ内容は部員全員に共有し、安全に活動できているか、ウインドサーフィン技術向上のため今後どうするかフィードバックする。

4. 出艇に関する制限

I. 全体について

- 練習当日は、部長又は部長代理が安全、無事故対策の責任者として全体を統括する。

- 富山大学ウインドサーフィン部・富山大学ヨット部・新湊高校ヨット部のいずれかのレスキュー船の出艇がなければウインドサーフィンの出艇禁止とする。
- 雷・強風注意報または警報が発令している場合は、出艇を中止する。
- 天候が雨で視界が遮られる(視界 2000 m以下)場合は、出艇を中止する。
- 最大風速 10 m及び波高 1.5 mに達する時は、全体での練習は中止し、技術の未熟な者は出艇を中止する。十分に技量があり、練習可能な者のみで練習する。
- Es Viento が出艇していない場合には、技術の未熟な者の練習海域は堤防内に制限する。
- 気温 5 度以下では練習を行わない。

II. 練習海域について

レベル(学年)毎に、練習海域の使用条件を以下に記す。海域 A および B の図は別紙に添付する。

(ア) 練習海域 A

次の条件が全て満たされた場合には、この海域を使用することができる。

① 1 年生

- 北の風で風速 8 m/s 未満、または西及び南の風で風速 8 m/s 未満
- 波高 0.8 m以下
- 天候が雨でないこと

② 2 年生以上

- 風速が 10 m/s 未満であること

(イ) 練習海域B

次の条件が全て満たされた場合には、この海域を使用することができる。

① 1 年生

- 北の風で風速 8 m/s 以上 10 m/s 未満、または西及び南の風で風速 10 m/s 未満
- 波高 1.2 m以下
- 視界が遮られるような雨が降っていないこと

② 2 年生以上

- 個人の技量から考えて、使用可能である場合

これらはあくまでも目安であり、最終的には個人的なレベルに応じて練習海域や出艇の制限を行う。2 年生以上でも技術の未熟な者は、上記よりも風速が弱い場合にも練習範囲を堤防の範囲内(別紙 B 区域)に制限する。

5. Es Viento の役割について

- ES Viento には必ず船長を含めて２名以上が乗船し、プレイヤーの救助を速やかに行えるように備えておく。
- 練習当日の天候の変化を把握しておく。
- 練習中にも最新の気象情報を入手する。
- 万が一部員が流れた場合には、下記のように救助活動を行う。
- 練習中は常に部員よりも風下に待機し、緊急時に備える。

6. 海上での情報収集

- Es Viento 乗員は海竜マリーナ及び富山気象台に電話することで、随時最新の気象情報を入手する。
- 船長が練習を続行するのが危険だと判断した場合には、直ちに部員を浜へ帰着させる。
- Es Viento に簡易の風速計を設置しておき、1 時間に一度風速を計測する。また、体感で風速の変化を感じた場合にも随時風速を確認する。計測した風速を随時練習日誌に記録する。

7. 流された場合の対処

- 艇が流された場合は、人命救助を最優先とする。
- ボードなどの道具は全員の救助が完了した後、安全であると判断されてから回収する。
- 原則として最も沖に流された者から順に救助する。全員の流された位置が把握できていない場合には Es Viento 船長はあらかじめ用意してある携帯電話を用いて、状況の確認と救助の順番の決定をする。
- 1 名でも流された場合は全員着艇を目指し、部長または部長代理は他の艇の着艇が十分可能な場合に限り一番風下の艇の確認を行い待機する。

(ア) 流された艇数が 2 艇以下の場合

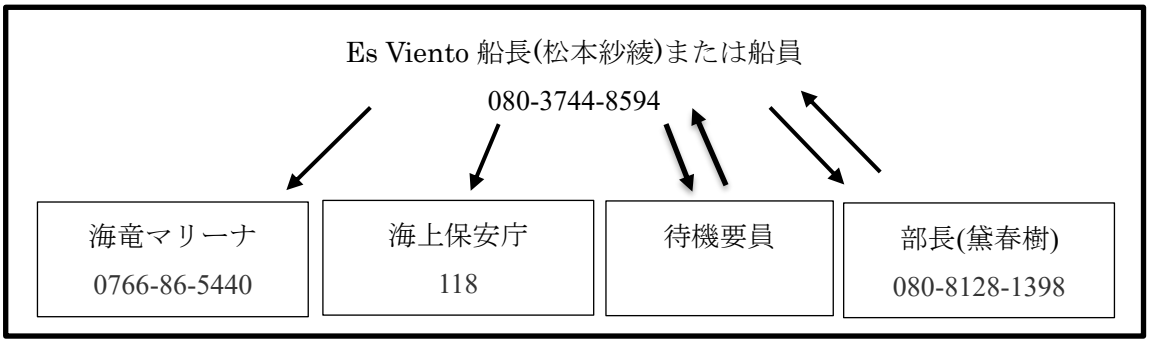
- Es Viento 船長は、浜に帰るように部員に指示する(拡声器を用いる)。
- Es Viento とボードをレスキューシートでつなぎ、堤防内の安全な場所まで運ぶ。
- 他のプレイヤーは直ちに帰着し、Es Viento 及び部長に帰着申告を行う。

(イ) 流された艇数が 3 艇以上の場合

- 直ちに海竜マリーナへ連絡し救助要請を行い、速やかに海上保安庁(118)に通報する。
- 流された艇が分散し救助が困難な場合、救助することにより Es Viento の定員を超える場合には、艇にアンカーを結びつけ、艇と人員をその場に留めておく（その際、艇がアンカーで固定されていることをしっかり確認しておく。）。
- 艇が分散して救助に時間がかかると判断した場合は、艇体を放棄し人命救助を優先する。
- 無事に帰着した人員は直ちに海竜マリーナ及び部長に帰着申告を行う。

8. 緊急時の連絡

(ア) Es Viento 船長または船員から、マリーナおよび海上保安庁へ速やかに通報する。また、船長と部長または副部長、浜辺の待機要員は連絡を取り合い、救助方法の確認を随時行う。



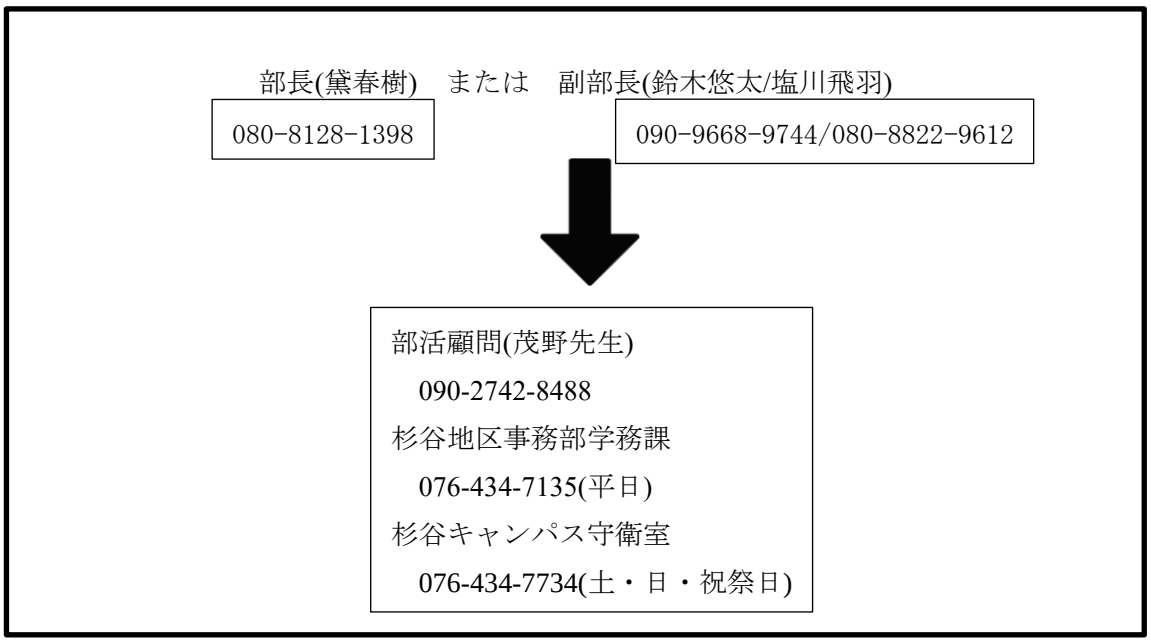
(イ) 部長・副部長が練習に参加していない場合

練習に参加している部員の中の最上級生が部長代理とし、Es Viento との連絡をとる。

(ウ) Es Viento 船長が練習に参加していない場合

船舶免許を持っている部員が代わりに Es Viento を運転すると共に、部長・副部長と上記の通り連絡をとる。

(エ) 部長または副部長から部活動顧問、及び平日の場合は杉谷地区学務課に、土・日・祝祭日の場合は杉谷キャンパス守衛室に事故報告を速やかに行う。



(オ) その他の緊急時連絡先

- 射水市民病院　0766-82-8100
- 伏木海上保安部　0766-45-0118
- 射水警察署　0766-55-0110
- 射水市新湊消防署　0766-82-8333
- 射北中学校　0766-86-0016
- 新湊高校　0766-84-2330

- 富山高等専門学校射水キャンパス　　0766-86-5110
- 富山大学(五福キャンパス)　　076-455-6090（時間外：076-455-6110）

9. 地震への対応

○ 地震発生時

・電話で海流マリーナと連絡を取り、指示を受ける。

・特に指示がない場合、浜に帰着する。

○ 大津波警報、津波警報、

・直ちに艇体放棄（アンカリング必要なし）を行い、人員のみレスキューにて海竜マリーナへ向かう。陸に到着後、海竜スポーツランドへ避難する。

○ 津波注意報発令時

・浜に帰着する。帆走の方が早いと部長が判断した場合は、帆走で浜に帰着する。陸に到着後、海竜スポーツランドへ避難する。

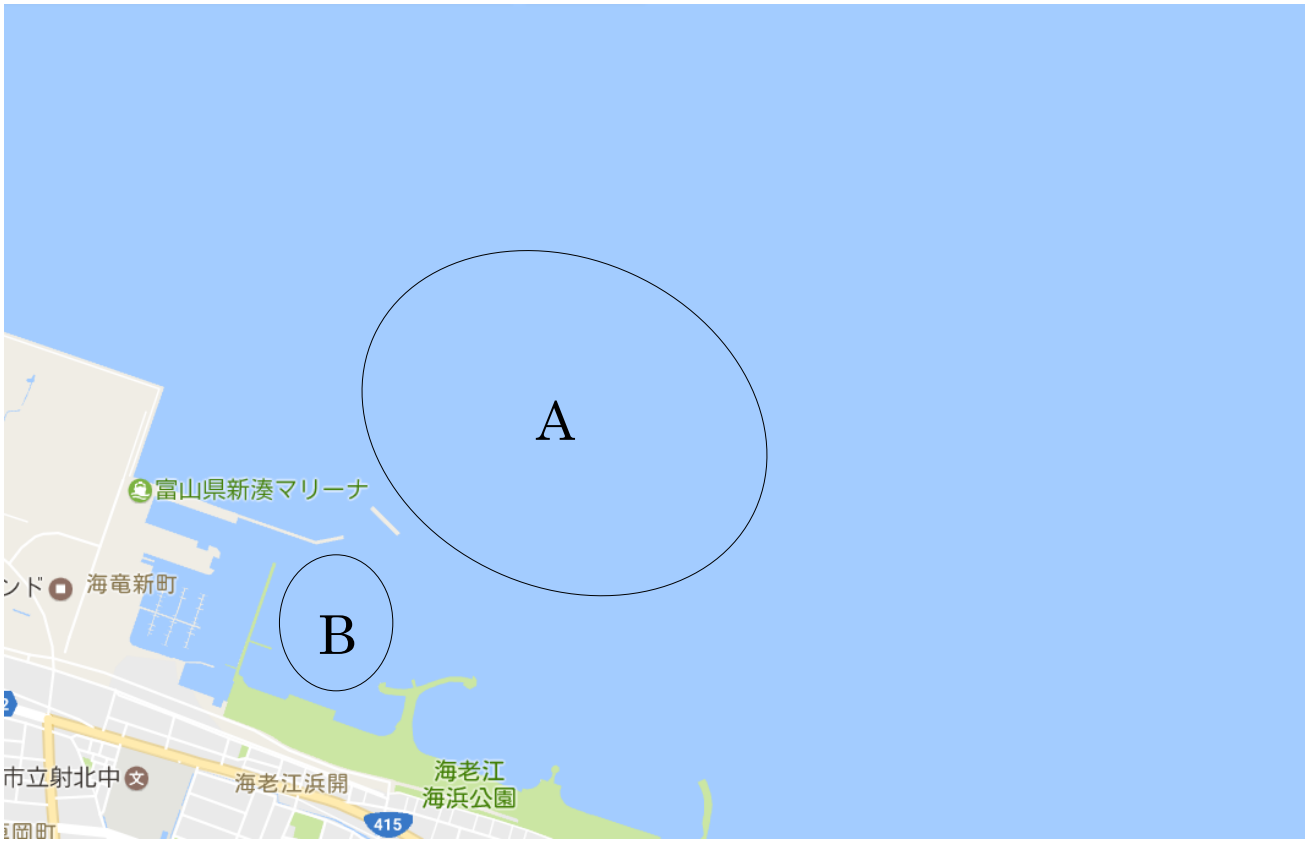
○ 注意報、警報が発令されない時

・津波の情報を確認し、津波の危険がないとわかり次第、練習を再開する。

・震度 4 以上であれば海竜スポーツランドへ避難する。

富山大学ウインドサーフィン部部長

黛春樹

別紙

練習海域